**第6章　林業**

**概況**

　府下の森林の大部分は隣接府県境沿いに連なる北摂山系、生駒金剛山系、和泉葛城山系に分布しており、かつ都市近郊に位置しているため、林業の基盤としてだけでなく、貴重な緑資源として「府民の森」など公益的機能を果たしている。  
　これを森林植物帯からみると、大部分は暖帯林で、一部に温帯林も見られる。しかし、現在の森林は大部分が「あかまつ」、「くぬぎ」、「こなら」等の二次林、あるいは「すぎ」、「ひのき」等の人工林である。なかでも、金剛、葛城山系では「すぎ」、「ひのき」が集中し、府下で最も集約的な林業が営まれている。  
　府下の林家数は、1980年農林業センサス（昭和55年２月１日現在）の結果によると、３万4256戸である。その内訳は農家林家数が7400戸（構成比21.6％）、非農家林家数が２万6856戸（同78. 4%）で、非農家林家が圧倒的に多い。

**林野面積**

　府下の林野面積は５万8025haで、前年より3 ha （0.0％）減少した。  
　その内訳をみると、国有林野面積は1042haで、前年より1ha（0.1％）減少し、民有林野面積は５万6760haで、前年より2 ha （0.0％）減少した。官行造林面積は前年と変わらず223haである。それぞれの大阪府総面積18万6807ha（昭和61年10月１日現在）に占める割合は、国有林野面積が0.6％、民有林野面積が30.4％、官行造林面積が0.1％である。  
　府下の林野面積の97.8％を占める民有林野のうち立木地は５万3932haで、前年より159ha（0.3%）減少し、民有林野面積の95.0％を占めている。その内訳は、人工林が２万6268ha （構成比48.7%）、天然林が２万7664ha （同51.3％）となっている。また、樹種別内訳は針葉樹が３万8910ha（構成比72.1%）、広葉樹が１万5022ha（同27.9％）となっている。  
　民有林野面積を市町村別にみると、能勢町が7789ha（構成比13.7％）で最も多く、以下、河内長野市7388ha（同13.0％）、高槻市4542ha (同8.0％）の順となり、この３市町で全体の３分の１強（34.7%）を占めている。

**林野蓄積量**

　府下の林野蓄積量は495万9500m3で、前年より６万5000m3 （1.3%）減少した。  
　その内訳をみると、国有林野蓄積量は12万4000m3で前年よりより3000m3 （2.5％）増加し、民有林野蓄積量は482万9000 m3で前年より６万8000m3 （1.4％）減少した。官行造林蓄積量は前年と変わらず6500 m3である。  
　民有林野蓄積量のうち、人工林は304万9000m3（構成比63.1%）、天然林は178万m3（同36.9%）である。また、樹種別内訳は針葉樹が428万9000m3（構成比88.8％）、広葉樹が54万m3（同11.2％）となっている。  
　民有林野蓄積量を市町村別にみると、河内長野市が100万1000m3（構成比20.7%）で最も多く、以下、能勢町43万4000m3（同9.0％）、高槻市41万4000m3（同8.6％）の順となり、この３市町で全体の38.3％を占めている。

**苗木生産量等**

　山行造林用苗木の生産量は93万8000本で、前年より11万4000本（10.8％）減少した。樹木別にみると、「ひのき」が82万3000本（構成比87. 7%）で最も多く、以下、「すぎ」が７万5000本（同8.0％）、「くろまつ」が３万本（同3.2％）、「あかまつ」が１万本（同1.1％）となっている。  
　林産物素材の生産量は２万3000m3で、前年より1000m3（4.2％）減少した。林産物素材の他府県への移出量は２万1000m3、移入量（外材を含む）は79万9000m3であり、移出量は移入量に比べ微々たるものである。